

街を行く

第101回 錦糸町 Kinshicho

喧騒から閑静へ？

写真手前の公園を挟んだ向こう側には閑静な住宅地が広がっています。これは都内有数の歓楽街として知られる、紛れもない錦糸町の光景です。それも、駅から徒歩5分以内のロケーションなのです。

錦糸町は、北は東武線とうきょうスカイツリー駅から南は首都高7号小松川線近くまでを指します。南北にまたがる大横川親水公園は、子供からお年寄りまで安心して散歩できる憩いの場で、平日昼時となれば近隣に勤めている多くの会社員がお弁当を広げています。こんな長閑な日常を錦糸町でも存分に味わうことができるのです。それに周辺環境とも凄くマッチしています。公園を挟んだ左右には沢山のマンションが建ち、歓楽街錦糸町を匂わせる喧騒感

は微塵もなく落ち着いた雰囲気です。皆さんは錦糸町という街に何をイメージしますか？ 小生は何といても駅前の総合レジャービル「楽天地」と、ごった返す人々の喧騒です。そんな錦糸町は近年、駅前再開発で巨大なオフィスビルやホテルが建ち「ニュー錦糸町」のイメージを醸し出しはじめています（が、いくら生まれ変わったとはいえ、錦糸町はやっぱり錦糸町ですが…）。開発が進み人口が流入、新たな住宅地も生まれてきているのです。

現代の街は、商業店舗の集積にはじまり、オフィスビルが加わり、最終的にマンションができる成長過程をたどりま

す。錦糸町はまさにその典型だと言えるでしょう。



マンション開発が進む錦糸町。歓楽街の喧騒はない

くれる街でした。西高東低とは、東京の住宅地の人気度合いを表したものです。つまり、山の手や武蔵野を含む西部東京地域、恵比寿や吉祥寺が住みたい街として断然の人気です。それに比べ東部東京地域は、個人商店や零細工場が立ち並ぶひなびた下町で、どちらかと言うと不人気でした。ですが近年は、東部が人気の住宅地として注目されはじめています。東京駅を中心とする街づくりが拡大し、東京メトロやJRの路線充実でアクセスの利便性が見直されたことが大きいでしょう。

このように、注目されるべき要素は多々挙げられますが、正直なところ「まさか」という驚きのほうが勝るでしょう。しかし、これは現実です。住宅人気は東へ進むとみて間違いありません。この写真は、まさに錦糸町のこれから、東京

東側の未来を物語っているのです。都市化が進みつつある錦糸町ですが、いまはまだ、かつての風情が残っています。美味しく、気取らない、下町ならではのよいお店がまだ沢山あるのです。食べ歩きの街として今のうちに一度訪れてみてはいかがでしょうか。

南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。